# ベトナム中部高原のバナ族が聴く音風景

# Soundscape heard by the Bahnar in the Central Highlands of Vietnam

柳沢英輔（同志社大学 文化情報学部）

要旨

本論の目的は、ベトナム中部高原の先住少数民族であるバナ族が、日常生活および生業の場でどのような音を聴いており、またそれらの音をどのように意味づけているのかを明らかにすることである。現地調査の結果、バナ族の間では、世代や性別を超えて特定の音に対する知識・価値観が共有されていることが示唆された。例えば、夜に鳴く牛や猫の鳴き声は村落内で悪いことが起きる前兆として捉えられていること、集会所や教会の鐘・太鼓の音は重要なニュースを知らせる音響メディアとして共有されていること、特定の鳥や蝉の声から、時間や季節を知る手掛かりを得ていることなどが明らかとなった。またベトナム戦争以後に進んだ森林伐採などを背景とする生態環境の変化により、虎やホエジカなど大型動物の声が失われたことも分かった。

キーワード：音風景、バナ族、ベトナム中部高原、生態環境、自然音
keywords：Soundscape, the Bahnar, the Central Highlands of Vietnam, ecological environment, natural sounds

## 1 緒言

ベトナム中部高原は多くの少数民族が暮らしている地域である。本稿が対象とするバナ族は中部高原に古くから居住している先住民族の 1 つで、儀礼・祭礼におけるゴング合奏、竹筒琴をはじめとする多様な竹製の楽器、叙事詩、民謡など豊饒な音の文化で知られる。バナ族の無形文化保持者トゥット氏によれば、「*Ting Ning*（ティンニン）」と呼ばれる竹筒琴がバナ族の間でおそらくもっとも古くから使われている楽器の一つであり、その音は自然の音（鳥の声、風の音、滝の音、森の音など）を模倣しているのだという [1]。したがって、バナ族の音楽はもともと自然の音を模倣することから始まっており、彼らの音文化の基層にはそうした様々な自然・環境音に対する感性があるのではないかと考えた。

近年、このような音楽（または音文化）と生態環境の関係性に焦点を当てた ecomusicology と呼ばれる新しい学問分野が注目を集めている（Allen and Kevin 2016）。そうした研究の先駆として、1960 年代終わり

[1] 筆者のトゥット氏に対する聞き取りより。

にサウンドスケープ概念を考案した R.M.シェーファーは、聴覚的環境、すなわちサウンドスケープがその中で生きている生物の身体的反応や行動の特徴に与える影響についての研究領域である音響生態学（Acoustic Ecology）という学問分野を提唱した（シェーファー 2006: 562）。その分野における実証的な研究として、スティーブン・フェルドは、パプア・ニューギニアの熱帯雨林に暮らすカルリの人々の「泣き」や「うた」の音楽性や詩学と熱帯雨林の音環境との関連性を明らかにした（フェルド 2000）。また、山田（2017）は、パプア・ニューギニアのワヘイの人々にとっての歌うことと川の流れが身体を媒介にして結びついていることを明らかにした。また音響生態学者のバーニー・クラウスは、歴史があって健全な生息環境では、各生物はオーケストラのようにその鳴き声の周波数帯域を棲み分けて共存しているという仮説を提唱している（クラウス 2013）。

以上を背景に、本研究では、バナ族の音楽と生態環境の関係性を考える上で、まず彼らが日常生活および生業の場でどのような音を聴いており、またそれらの音をどのように意味づけているのかを明らかにしたいと考えた。また 1990 年代以降の市場経済化の進展に伴う近年のベトナムの経済発展とともに、その生活スタイルも変化を余儀なくされている。そうした中で、彼らを取り巻く環境音やその聞き方も変わりつつあると推測できる。ならば、今後失われていく、変化していくであろうそうした音や音の聴き方についても記録に残す意義があるのではないか。

## 2　バナ族について [2)]

バナ族（the Bahnar）はジャライ族（the Jarai）とともにベトナム中部高原に最も古くから住んでいたと考えられている先住民族である。バナ族は，ベトナムにおける人口が 174,456 人（1999 年のベトナム政府統計）で，モン・クメール語派の中では中部高原で最大の少数民族である。バナ族のサブグループには、ロンガオ（Ro Ngao）、コントゥム（Kon Tum）、ジョロン（Jo Long）、トロー（To Lo）などがある。主にコントゥム省，ジャライ省に居住し，ビンディン省およびフーイエン省西部にも一部が居住している。

生業は，伝統的に焼畑陸稲栽培を行ってきたが，近年では水稲栽培やキャッサバ，コーヒー，バナナ，ゴムなど換金作物の栽培を行っている者も少なくない。伝統的には、女性は腰機の織機で民族衣装を織り，男性は竹や籐を使って背負い籠、漁具など生活道具の製作を行っていたが、生業の変化や既製品が普及し

---

[2] この章は、筆者のフィールド調査に加えて、Nguyễn Văn Huy (2006)、Bùi Minh Đạo (2011)を参照した。

た現在ではそうした伝統も衰退しつつある。ベトナム戦争以前は物々交換が主流であったが，現在では貨幣経済が多くの地域で浸透している。宗教は，アニミズム的な精霊（*yang*）信仰の他，19 世紀にフランスのカトリック宣教団による布教が進んで以降、キリスト教が信仰されている地域も多い。

## 3　方法

2015 年 8 月～9 月および 2016 年 8 月に、ベトナム中部高原コントゥム省コントゥム市およびダクハ県のバナ族村落でフィールド調査を行った。フィールド調査では、後述するインフォーマント[3] に対する聞き取り調査、農業、狩猟、川漁などの生業の調査、村落内および生業の場の様子や風景（音風景）の撮影と録音などを行った。聞き取り調査を行った村落はコントゥム市内がコンフラチョット村、プレイ・ルーハイ村、ダクハ県内がコングン村、ロンロイ村、第 5 村である。

聞きとり調査を行った主なインフォーマントの概要を表 1 に示す。インフォーマントは、年齢、性別、生業の異なる人物を選定した。なお E 氏はキン族だが、長年バナ族の村落に居住しているため参考までに選定した。

表 1 インフォーマントの概要

| 名前 | 民族名（サブグループ） | 村名 | 性別 | 年齢 | 生業 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | バナ族（ロンガオ） | コングン村 | 男 | 27 歳 | 農業 |
| B | バナ族（ロンガオ） | コングン村 | 女 | 30 歳 | 農業 |
| C | バナ族（ロンガオ） | コングン村 | 男 | 35 歳 | 農業・（狩猟） |
| D | バナ族（ロンガオ） | コングン村 | 男 | 36 歳 | 農業・（狩猟） |
| E | キン族 | コングン村 | 女 | 57 歳 | 農業 |
| F | バナ族（ロンガオ） | コングン村 | 女 | 65 歳 | 農業・漁労 |
| G | バナ族（ロンガオ） | ロンロイ村 | 男 | 77 歳 | 農業・漁労 |
| H | バナ族（ロンガオ） | 第 5 村 | 女 | 22 歳 | 農業 |
| I | バナ族（ロンガオ） | 第 5 村 | 男 | 80 歳 | 農業 |
| J | バナ族（コントゥム） | コンカトゥ村 | 男 | 51 歳 | 手工芸 |
| K | バナ族（コントゥム） | コンフラチョット村 | 女 | 60 歳 | 修道女 |
| L | バナ族（コントゥム） | プレイ・ルーハイ村 | 男 | 50 歳 | 楽士 |

バナ族の日常生活および生業の場の音に対する認識を明らかにするため、上記のインフォーマントに対して質問票（表 2）を用いた聞き取り調査を行った。①と②の質問は、特定の音の好悪の有無とその理由を明らかにするとともに、そこから特定の音に対する意味づけを探るために行った。③の質問は、地域共同

[3] インフォーマント（Informant）とは、文化人類学や言語学のフィールド調査などで研究者に情報を提供してくれる人のことである。

体（村落）における標識音[4)]（シェーファー 2006）を明らかにするために行った。④の質問は、生業の場では生態環境と結びついた自然の音がより多く聞こえるであろうということと、特定の音が作業の良し悪しや行為の判断基準と結びついている可能性を探るために行った。⑤の質問は、個々人の記憶に残された過去の音にどのようなものがあるのか、つまり音と記憶の結びつきを探るために行った。なお⑤は⑦の質問項目と関連性が強い。⑥の質問は、もともと時計やカレンダーを持っていなかった彼らの時間・季節に対する意識が環境の音とどのように結びついているのかを探るために行った。⑦の質問は、既に失われた（と考えられる）音についてどのようなものがあるのか明らかにし、その背景について考察するために行った。

なお現地調査はバナ族の調査助手とともに行い、交渉・通訳・撮影補助・映像翻訳などのサポートを必要に応じてしてもらった。

表 2 質問票

| |
|---|
| ①好きな音は何ですか？　またその音を聞くとどのように感じますか？ |
| ②嫌いな音は何ですか？　またその音を聞くとどのように感じますか？ |
| ③この村を象徴する音は何だと思いますか？　またなぜそう思いますか？ |
| ④フィールド（生業の場）ではどのような音を聞いていますか？　それはなぜですか？ |
| ⑤記憶と結びついている音はありますか？ |
| ⑥特定の時間や季節を教えてくれる音はありますか？ |
| ⑦昔聞こえた音で現在では聞こえなくなった音はありますか？ |

## 4　結果

聞き取り調査の結果、各質問項目に対する回答に共通点が見られたため、バナ族の間では世代や性別を超えて特定の音に対する知識・価値観などが共有されていることが示唆された。以下に各質問項目に対する回答の概要を記す。なお質問項目と回答内容に齟齬がある場合、あるいは回答が重複している場合、より適当と考えられる質問項目の回答として扱う（従って、回答が重複している部分については無回答となっている）。また C 氏と D 氏は 2 人一緒にインタビューしたため、回答を区別しない。

①好きな音は何ですか？　またその音を聞くとどのように感じますか？

[4] 標識音（soundmark）とは、陸標（landmark）からつくられた用語で、その共同体の人々によって特に尊重され、注意されるような特質を持った共同体の音を意味する（シェーファー 2006: 559）。

A 氏：夜の 18 時、19 時頃にウェック（*Wêk*）という鳥（鳥種不明）が囀るのが聞こえる。「チュアル、チュアル」と鳴くんだ。その鳥の声を聴くと、子供の頃、畑（の小屋）に父と泊まっていたことを思い出すよ。

B 氏：コオロギや蛙の声を聴くと、幼い頃に両親が小川に連れて行ってくれた時のことを思い出すわ。

C、D 氏：森はとても涼しくて、元気が出るよ。鳥の声やリスの声を聞くととても穏やかな気分になるんだ。仕掛けた罠に動物が捕まっているとより嬉しい気分になるね。森では沢山の鳥の声が聞こえるよ [5]。

E 氏：カッコウ（*Chim Bìm Bịp*、学名 *Centropus sinensis*）ね。初めてこの村に来たときから毎日聴いてるわわよ [6]。

F 氏：ゴングの音を聴くと、若い頃、たき火の周りを友達と踊ったことを思い出すわね [7]。昔はバイクの音もなく、のどかだった。夜になると鶏やコオロギ、蛙などが鳴く声が聞こえたわ。

G 氏：昔、「ブレン」という巨木の中から子守唄のような音が聞こえた。わしが 12 歳の頃、政府がその木を切り倒してしまってからは、もうどこにも見当たらないがね。

H 氏：フクロウの声が好き。「ポ、ポ、ポ、ポ」という音を聴くと嬉しくなるの。あと音楽だと沢山好きな曲があるわ。今だと「ザ―ンロン（*Giận Long*）」と「ニューバイトイ（*Như Vậy Thôi*）」なんかをよく聴くわ [8]。

---

[5] C 氏と D 氏は生業としてではなく、娯楽として小型の小動物（リス、山ネズミ、ハリネズミなど）を村落付近の森の中に罠を設置して狩猟しており、捕まえた動物は多くの場合、自家消費している。森で聞こえる鳥の声として、キュウカンチョウ（*Chim Nhồng*、学名 *Gracula religiosa*）、シキチョウ（*Chim Chích Chòe*、学名 *Copsychus saularis*）、プレオ（*Chim Pleo*、鳥種不明）、ザン（*Chim Răng*、鳥種不明）、フアイ（*Chim Huây*、鳥種不明）などが挙げられた。

[6] ベトナム中部高原の各省には先住少数民族のほかに、低地から移住してきた多数派のキン族や、東北部から移住してきたタイー族、ヌン族などの少数民族が居住している。通常、キン族は少数民族が居住する村落から離れた都市（*thành phố*）や町（*thị trấn*）に居住している。しかし、中には村落に一時的あるいは永続的に居住し、少数民族相手に日用品などを販売する商店を経営する者や、農業で生計を立てて暮らす者もいる。E 氏は経済的な理由から 1996 年に北中部クアンビン省からコントゥム省に移住し、現在はコングン村でコーヒーを栽培して生計を立てている。同村には彼女の他にも 20 数人のキン族が暮らしている。

[7] 伝統的な儀礼・祭礼や葬式におけるゴング演奏の際は、十数名の男性がゴングを演奏し、女性は男性の周りを手を繋いで踊る。昔は若い男女が出会う主な機会はゴング演奏が行われる儀礼・祭礼の時であった。

[8] キン族の歌手が歌うポップスの曲名。ベトナムの歌謡曲は欧米化が進んでおり歌唱レベルも高い。近年、ベトナムの農村部でも少数民族の若者の多くがスマートフォンを所有しており、テレビや YouTube などで流行りの音楽を日常的に視聴している。

I 氏：木の葉が風で揺れる音を聴くと幸せな気分になるね。幼い頃小川で魚を捕まえた時のことを思い出すよ。

J 氏：米が実る頃（11～12 月）、鳩が 2，3 匹鳴く声だね。

K 氏：無回答

L 氏：ギターの音が聞こえると嬉しくなるね。夜、近所の家からギターの音が聞こえると眠れなくなって、その家に行って一緒に演奏したり、歌ったりするよ [9]。あとは蛙、鳥とか動物の音が沢山聞こえるな。特に好きなのは、セムタキダ（*Xem Takida*）と呼ぶ鳥（鳥種不明）。その鳥は「タッコドロットサカ（*Tak ko drot xa ka*）」と鳴くんだ。この鳥の声は遠くの場所からでもよく聞こえるよ。

②嫌いな音は何ですか？　またその音を聞くとどのように感じますか？

A 氏：小さい子供が泣き叫ぶ声が聞こえると、（自分が）幼い頃家族が貧しかったことを思い出して悲しくなるよ。貧しくて十分な食べ物がもらえてないんじゃないかってね。あと夜眠っているときに、ゴング演奏の音（葬式に演奏する曲）が聞こえると悲しくなるね。

B 氏：ゴング演奏の音は葬式を思い出すので、悲しくなるわ。畑で「ホー、ホー」というフクロウの声を聴くとお化け（*Kyăk Kui*）を連想して怖くなるわ。

C、D 氏：昔は森で木が倒れる音や虎、野生の水牛（白い水牛）の出す音が怖かった。今では特に嫌いな音はないね。

E 氏：　フクロウね。フクロウが鳴くと悪いことが起きるのよ [10]。

F 氏：（昔）畑でよく虎の声が聞こえたよ。畑は遠くの大きなジャングルの中にあってね。虎の舌が見える

---

[9] L 氏は 1977 年、12 歳の時に事故で両目に怪我を負って全盲になった。当時はベトナム戦争直後で良い治療を受けられなかったという。現在、L 氏は村きっての歌い手、ギター演奏者として知られ、お祝いの席などで演奏している。

[10] フクロウの鳴き声は悪いことが起きる前兆と捉えられている。またフクロウが鳴くと 3 日以内に天気が変わると言われている。日本でもフクロウの声が好天を予兆するという言い習わしがあり、『日本言語地図』では日本海沿岸を中心に「ノリツケホーセー（＝糊をつけ洗濯物を干しなさい）」といった聞きなしをする地点が数多く報告されている（中井 2011）。

のさ。とても長い舌でね。本当に怖かったわ。またお化け（*Kyăk Kui*）が＜クーイ、クーイ、クーイ…＞と鳴くのよ。畑（の小屋）に一人で寝ていたのでとても心細くて、怖かったわ[11]。（お化けは）一晩中鳴いていたわね。

G 氏：フィールドにはジュラオ（*Jrao*）とボロトック（*Bôrôtôk*）という 2 種類の不吉な鳥（鳥種不明）がいるよ。また夜に聞こえる猫の声も不吉だね。

H 氏：夜に牛が「モーモー」と鳴くのは不吉ね。それは 牛が盗まれる、あるいは、病人や死者が出る、のどちらかの前兆とされているから。また夜に鳴く猫の声は怖いわ。あと猛スピードで走るバイクの音は不快ね。

I 氏：オウムの声を聞くと悲しくなるね。昔のことを思い出すからね。若い頃は何だってできたけど、今は年のせいでできなくなったからね[12]。

J 氏：若い頃、森の中で虎の声が聞こえるととても怖かった。猫の声は不幸をもたらすから嫌いだね。

K 氏：真夜中にオートバイの音が聞こえると泥棒じゃないかと心配で眠れなくなるわ。

L 氏：猛スピードで飛ばすオートバイの音を聞くと、両親の言うことをきかない子供たちのことが気がかりで眠れなくなるんだよ。日常生活にはいつだって沢山事故が起きてるから。バイクの音を聞くと怖くて、ストレスを感じるよ。子供たちが外出して、家に帰ってこないと心配になる。何か悪いことが起きたんじゃないかって。つまり事故とか。だからオートバイの音を聞くと不快で、ぞっとするんだ[13]。

③この村を象徴する音は何だと思いますか？　またなぜそう思いますか？

---

[11] 若い頃、F 氏はいつも畑で農作業をして畑の小屋で寝泊りしていた（日曜朝の教会の礼拝に行くため土日は家に帰る。また 1 月と 2 月は家で過ごした）。夜になると虎やお化けの声がよく聞こえたという。

[12] I 氏は若い頃よくイノシシやシカを狩猟していた。そこでオウムや鳩が鳴くのを聞いたという。

[13] 実際にオートバイの事故は日常茶飯事であり、特に夜間、酒に酔った若者が猛スピードでバイクを飛ばして起きる事故が後を絶たない。東南アジアの農村部では、オートバイの音はそうした事故のイメージを強く喚起する音として日常的に経験されている。例えば、Komatra（1999）は、タイ北東部クイ族の女性の倦怠感や食欲減退といった症状と、事故のイメージや無力感を喚起させるオートバイの音に日常的に曝されているという聴覚的な経験との関係性について考察している。

A 氏：集会所のベルの音 [14]。ベルが速く鳴らされると悪い知らせだ（例えば、盗み、火事、喧嘩）。ゆっくり鳴らされると会議の時間だと分かる。

B 氏：無回答

C、D 氏：鶏の鳴き声。最初と次の鶏が鳴くときは嘘をついている（まだ朝じゃない）。3 匹目が鳴くときに、朝が来たと分かるんだ。夜の 6 時か 7 時に鶏が鳴くのは婚姻前の女性が妊娠したことを知らせてるんだよ。

E 氏：無回答

F 氏：昔は、集会所にある太鼓の音が（村落内に）ニュースを伝えたのよ。もしその音が速ければ悪いニュース、ゆっくりなら教会に行く時間というように。集会所で会議を行うときは竹をスティックで叩いて「コッコッ」という音を立てて知らせたのよ。

G 氏：鶏の鳴き声。最初の声で朝 4 時だと分かるんだよ。女性は起きて朝食の準備を始める。2 匹目の鶏の声で朝 5 時。朝食を開始して、畑に行く準備をするんだ。3 匹目の鶏の声で朝 5 時半で、畑に行くのさ。昔は鶏の声で時間が分かったんだよ。だから一日の時間を教えてくれる鶏の声が村の象徴音だね。

H 氏：教会の太鼓の音と集会所のベルの音。皆を招集させるからね。

I 氏：集会所のベルの音。悪いニュースを知らせるときは「テレ、テレ、テレ、テレ…」とベルを鳴らす。会議の時は、「テレ、テレ、（一秒沈黙）、テレ、テレ、（一秒沈黙）….」というように鳴らす。

J 氏：コオロギ、蛙、鶏、子供の声。それらの音を聴くと幼い頃を思い出して幸せに感じるから。

K 氏：教会のベルが鳴るのが聞こえると、礼拝の時間（17 時半ごろ）だと分かるの。教会に行く前、私たちは祈りの準備をするの。入浴して、衣服を着替え、聖書を用意する。祈っている時、私たちは神

---

[14] バナ族の各村落にはニャーロンと呼ばれる大きく美しい高床式の集会所がある。集会所は村の団らんや会議を行う場として使われる。ニャーロンの建築方法や機能などについては柳沢（2013）を参照のこと。

様と様々なことを共有しなければならないのよ。静かにその日に何が起こったのかを伝えるの。悲しいこと、悪いこと、嬉しいこと全てを。

L 氏：ゴング演奏の音だ。この村ではゴング演奏の音が聞こえると葬式が行われていると分かるからね [15]。

④フィールド（生業の場）ではどのような音を聞いていますか？　それはなぜですか？

A 氏：畑では風が強く吹いた時に木々が擦れ合って音を立てるのが聞こえるよ。「ケッコ、ケッコ」という音がね。涼しくて心穏やかになる。1 人畑で農作業をしているととても寂しいから、（スマートフォンで）音楽を聞くんだ。音楽がなかったら寂しくて仕事にならないよ。音楽があるから一人でも作業ができるのさ。

B 氏：無回答

C、D 氏：ホエジカ（*Con Mang*、学名 *Muntiacus*）。「ポッポッ」と鳴く音かな。巨大なお化け（*Kyăk đôi*）の声を聞くとぞっとするよ [16]。森でカオ（*Chim Cao*）という鳥の声が前方から聞こえたら、来た道を戻らないといけないんだ。左の方から聞こえたら問題ないけど、右の方から聞こえたら（そのまま進むと）悪いことが起きるのさ [17]。

E 氏：畑にいるときは風でコーヒーの葉が立てる音が聞こえるわ。

F 氏：　昔、フィールドで寝泊りしていた時、カラスの声が聞こえるとお化け（*Kyăk*）がやってくると知りとても怖かったわ。

G 氏：無回答

---

[15] 昔は様々な儀礼・祭礼が行われ、そうした機会には必ずゴングが演奏されていた。しかし、現在では、この村のように主に葬式の際にしかゴングを演奏しなくなったという村が増えている。そうした村ではゴング演奏は葬式と結びついた＜死のイメージ＞を喚起させるものとなっている。バナ族など各少数民族のゴング演奏機会については、柳沢（2009）を参照のこと。

[16] 身長が 2m あり人間のように直立で 2 足歩行するという。

[17] 天と地を自由に飛び回る鳥はこの世とあの世を媒介する存在としてしばしば神聖視されてきた。ボルネオ島の狩猟採集民プナンにとって、鳥の声はカミの声であり、そのメッセージは狩猟をはじめとする生活の様々な面に関わる予言として捉えられている（卜田 1996）。またカラハリ砂漠の狩猟採集民グイは、カンムリショウノガンが鳴きながら飛ぶとき、目当ての獲物が手に入らないことを知る（菅原 2015）。

H 氏：蛙の音。両親のことを思い出すわ。

I 氏：川に浮かぶクックという鳥（鳥種不明）が「クック、クック」と鳴くのを聞くとうれしく感じるね。

J 氏：夜、村近くの大きな森からモモンガの音が聞こえるよ。その音を聴くと若かったころのことを思い出す。またクエンと呼ばれる猿の声を早朝（5 時、6 時）に聞く。その声を聴くと嬉しくなる。

K 氏：機を動かして模様を織っている時は、「ロテンドック、ロ、トゥップ、トゥップ」という音が聞こえるわ。（長年）織っているから腰痛がするのよ。でも多くの司祭が私の織った衣装を予約するから嬉しいの。

L 氏：蛙、鳥とか動物の音が沢山聞こえるよ。

⑤記憶と結びついている音はありますか？

A 氏：子供の頃いつも小川の近くで水牛の世話をしていた。それから父が（魚を捕まえるために）竹の罠を仕掛けた小川に連れて行ってくれた。小川の音と鳥の声を聞くと当時のことを思い出すよ。

B 氏：無回答

C、D 氏：トビトカゲ（*Con thằn lằn biết bay*）が「ジルジャー、ジルジャー」と鳴くのを聞くと、子供の頃両親の後をついて畑に行ったことを思い出すよ。

E 氏：無回答

F 氏：虎が畑に降りて動物を食べようとするとき、とても高く、長い音をだすことを良く覚えているわね[18]。

G 氏：鳩の声は米を収穫する時を教えてくれる。その声を聞いて畑に行くと稲穂が実り収穫の時期を迎えていることがわかるのさ。だから鳩が「クックトゥトゥル、クックトゥトゥル」と鳴くのが聞こえると嬉しかった。今、鳩の鳴き声を聞くと、両親が畑に行って一人家で寂しく留守番していた時のことを思い出すよ。だから決してこの音を忘れないよ。この音を聞くといつも涙がでるんだ。

---

[18] かつては、村の近くに大きな森がありそこに虎もいた。しかし、ベトナム戦争によって森は荒廃し、その後も多くのキン族が移住しプランテーションなどを作るために森を伐採したため虎も絶滅したという。

H 氏：牛の音を聴くと幼い時のことを思い出すわ。いつも水牛の世話をして、罠で魚を捕まえたりしていたから。

I 氏：爆弾や銃の音だね。（ベトナム戦争で）アメリカ軍の下で働いていた時のことを思い出すよ [19]。

J 氏：キツツキの音を聴くと、昔よく父親について狩猟に出かけたことを思い出すね。「ロロ、ロロ」と木をつついて、木の中にいる昆虫の幼虫を食べるんだ。キツツキは 12 月に聞こえるね。川に行く時に聞こえるよ（幾らかの米は川の近くで栽培されている）。その音を聴くと嬉しいよ。

K 氏：無回答

L 氏：無回答

⑥特定の時間や季節を教えてくれる音はありますか？

A 氏：昔は時計がなかった。だから（特定の）鳥の声を聞いて時間を知ったんだ。鳥の名前は「カオ」といって、「カオ、カオ、カオ」と鳴くんだ。その鳥の声を聞くと午後 4 時、つまり（フィールドから）家に帰る時間だと分かるんだよ。またさなぎから沢山の蝶が羽化する音を聴くと、4 月になったと分かる。全ての木々が葉を落とす季節だ。

B 氏：蝉は朝の 9 時（1 回目）と 11 時（2 回目）に鳴くわ。

C、D 氏：カオという鳥（*Chim Cao*）が「カオ、カオ、カオ」と鳴くと午後 4 時になったことが分かる。タンロドックという鳥（*Chim Tang Rơđoc*）が「タンロドック、タンロドック…」と鳴くとコメの収穫時期が来たことが分かる（9 月～10 月）。

E 氏：昼に鶏が鳴くのが聞こえると 12 時になったと分かるわね。

F 氏：早朝に畑で目が覚めると、コヨン（*Chim Kodong*、鳥種不明）が「ブルイ、ブルイ…」と鳴いていて、

---

[19] バナ族、ジャライ族など中部高原の少数民族は、ベトナム戦争時、親米（アメリカ反共同盟軍および南ベトナム国軍）、親共（親北ベトナム勢力、南ベトナム開放民族戦線）、親カンボジア（FULRO=被抑圧諸民族闘争統一戦線）の 3 つの勢力に引き裂かれて戦った。外部の様々な勢力に翻弄されてきた中部高原少数民族の歴史と現在も続く宗教、土地問題については、新江（2007）を参照のこと。

プレオ（*Chim Pleo*、鳥種不明）が鳴くのが聞こえたわね。またジョン（*Chim Jong*、鳥種不明） とザイヨンタリン（*Chim dai dong taling*、鳥種不明）が「チェップチョップ、チェップチョップ」と鳴くのが聞こえると朝起きる時間になったと分かる。時計を使うようになる前は、これらの鳥が起床の時間を教えてくれたのよ。

G 氏：2 種類の蝉がいて、一種類は 2 月に鳴く（2 月になったことを教えてくれる）。もう一種類は 2 月～11 月の午後 4 時、5 時に鳴く（仕事を終える時間を教えてくれる）。

H 氏：午後 5 時、6 時頃になると蛙やコオロギの声が聞こえる。

I 氏：蝉は午後 6 時に「ウェーン、ウェーン」と鳴く。パラトックという鳥（鳥種不明）は焼畑のために木を伐採する季節（2 月、3 月）を教えてくれる。

J 氏：蝉の鳴く「ヤーン、ヤーン」という音を午後 1 時～2 時に聞く。ボムという鳥（鳥種不明）は田植えの時期（4 月～5 月）を教えてくれる。

K 氏：無回答

L 氏：ジュズカケバト（*Chim bồ câu rừng*、英名 ringdove）は 5 月に鳴くよ。朝に鳴くのが聞こえると 7 時、午後に鳴くのが聞こえると 4 時か 5 時だと分かるのさ。

⑦昔聞こえた音で現在では聞こえなくなった音はありますか？

A 氏：昔は村の近くに小さな滝があって岩に「ボン、ボン」と水がぶつかる大きな音が聞こえたんだ。その川の左岸側はボートで渡ることもできた。（政府がその場所に湖を作り川は消滅したため）もうその音は聞くことができないね。

B 氏：無回答

C、D 氏：オナガザル（*Con khỉ guenon*、顔は小さく、手や尾は長い）だね。口笛のような鳴き声で遠くまで良く響いていたよ。

E 氏： 無回答

F 氏：（昔は）沢山の種類のお化けの声が聞こえたわ。それら全ての音を今も思い出せるわよ。クランンゴー（*Klang ngo*）という鳥は「クンゴー、クップ、クップ、クップ…」のように鳴くのよ。その鳥は静かな森の中で一匹で繰り返し鳴くの。通常は夜 9 時、10 時位に鳴くわね。また鷹（*Klang Klo*）が「クリックレーオ、クリックレーオ、クローイ、クローイ、クローイ」と鳴くのも聞こえた。鷹は静かな森の中で夜 9 時、10 時ぐらいに鳴くのよ。

G 氏：「ブレン」という名前の直径が 2，3m ある木があってね。木の中から音が聞こえるんだよ。「オ、ロエンロンオ、オ、ロエンロンオ」「オ、ロエンカウベン（ロエンは私たちを待っています）」という音が聞こえるんだ。その木は村近くにあったんだけど、今ではなくなった。今でも頭の中ではその音が聞こえるんだけど、木はないんだ。今ではどこでその木が見つかるのかも分からない。頭の中で音は聞こえるんだけど、どこにも見当たらないんだよ。

H 氏：クランンゴー（*Klang ngo*）という鳥。昔はこの鳥の声をとても恐れていた。この鳥は人間を食べるという言い伝えがあったから。

I 氏：ホエジカ、クジャク、ブルイ（鳥）、パコダ（鳥）だね。ホエジカは「ポッ、ポッ、ポッ」と鳴く。クジャクは「オ、オ、オ」と鳴く。ブルイという鳥は「ブルイ、ブルイ」と鳴く。パコダという鳥は「パコダクラカ（虎が食べている）」と鳴く。

J 氏：虎と猿の声。

K 氏：無回答

L 氏：ホエジカの「ホッ、ホッ」という声。朝の 4 時、5 時と午後の 3 時から 5 時に鳴き声が聞こえた。

### 4.1 回答のまとめ

①好きな音として、様々な鳥の声、虫の音、木の葉が風に揺れる音など自然の音が多く挙げられた。それらの音を聞くと、心が穏やかになる、幸せな気分になる、幼いころのことを思い出すなどの回答があった。

②嫌いな音として、夜に鳴く牛や猫の鳴き声などが挙がった。それらの音は村落内で良くないことが起

きる前兆と捉えられていることが分かった。また特定の鳥の声がお化けを表象していること、かつては虎が森にいて恐れられていたことなどが明らかになった。またオートバイの音を不快に感じるという回答も複数見られ、それらの音が騒音として捉えられていることが示唆された。さらにゴング演奏の音が死（葬式）のイメージと結びついており、その音を聴くと悲しくなるという回答もあった。

③集会所や教会の鐘・太鼓の音、鶏の鳴き声が村を象徴する音として挙げられた。集会所や教会の鐘・太鼓の音は、事件、会議、礼拝の開始などの重要なニュースを住民に知らせる音響メディアとして村落内で共有されており、叩き方によって伝える内容が変わることが分かった。また鶏の鳴き声は、一日の時間を知る手掛かりを得る音として現在も認識されていることが分かった。

④様々な鳥や動物の鳴き声、風が立てる音などが生業の場の音として挙げられた。また鳥の名前の多くは鳥の鳴き声にちなんで命名されていることも確認できた。農業の繁忙期や遠くの森に狩猟に行く場合など、フィールドに作られた仮設の小屋に長期間寝泊りすることがあるが、その時に聞こえる虎やお化けの音を恐れていることが分かった（虎は現在では見られなくなった）。また若い回答者の中には、農作業をするときには音楽（スマートフォンを携帯音楽プレーヤーとして使用）が欠かせないと答えた者がいた。

⑤各回答者の幼い頃の記憶と結びついた動物や自然の音について様々な回答が挙げられた。年長の回答者の中には米軍とともに戦ったベトナム戦争の記憶の音を挙げた者もいた。

⑥特定の鳥や、蝉、鶏の声などから時間や季節を知ることができるという回答が共通して挙げられた。バナ族は、時計がなかった時代はもちろん、現在もそうした音から時刻や季節の移り変わりを感知していることが分かった。

⑦虎、猿、ホエジカなどの動物の声、お化けの声、木の妖精の声などが挙げられた。それらの声の中には、調子や音色を人間の言葉やフレーズに当てはめる「聞きなし」が行われていたことも確認できた。実際には聞こえなくなった現在でも彼らの頭の中でそれらの音は響いており、記憶の音として強く印象に残っていることが分かった。

## 5　考察

自然を相手に自給自足的な生活を行っていた時代から現代まで受け継がれてきたバナ族の音文化の基層を成す彼らの生態環境の音に対する知識・価値観の一端を把握することができたと考える。フィールド調査から、近年、キン族が経営する大規模農園、工場などで働くバナ族が増えており、その結果、焼畑・狩

猟・織業・鍛冶・川漁などの伝統的な生業とそこから生まれる音風景も失われつつあることが示唆された。その背景には、現在、焼畑や生業として狩猟を行うことが法律で禁止されていること、織業、鍛冶についても街の市場で安価な既製品が流通している状況があることなどが分かった。

また聞き取り調査では、ベトナム戦争による環境破壊に加えて、主に1980年代以降多数派のキン族が多数移住し、ゴムやコーヒーのプランテーションを作るために森が伐採されたため、特定の動物や鳥の個体数が減少し、それらの声が聞こえなくなったという回答が共通して聞かれた[20]。昔は村落の近くに清流があり沢山の魚を捕まえることができたが、キン族によるダム開発や農薬の使用（コーヒーなどのプランテーションから農薬が川に流れ込む）で川が破壊、汚染され、魚の数が激減したという話もあった。実際に筆者が訪れたコングン村付近の川は濁っていて魚はほとんどおらず、タニシが採れるのみであった。そのため、伝統的な竹の漁具を使った川漁も今後行われなくなっていく可能性がある。

また回答にもあったように、特に若者たちの間で音楽はスマートフォンを介して場所や時間を問わず携帯され、聴取され、（しばしば内蔵スピーカーを通して）その場にいる人々に共有されることで、新たな音風景が作り出されている。バイクの走行音や電子機器が発する音・音楽（携帯電話の着信メロディ、ゲームの音、カラオケやテレビの音などを含む）は村落内でしばしば聞こえてくる音であり、これらの音は村落のサウンドスケープの中で蔑ろにできない音になっていると考える。

今後の課題として、バナ族の叙事詩を高齢化が進んでいる語り部から収集して（既に一部は書籍としてベトナム語で出版されている）、その中に自然の音などについて語られているものがあるかを調べ、そこから彼らの自然観や自然の音に対する意味づけについて考察したいと考えている。また竹などの自然林産物を用いた楽器製作の行程を調査することで、彼らの音楽と生態環境との関わりについてより深く理解することができるのではないか。さらに筆者が行っている現地の音楽やサウンドスケープのフィールド録音を用いて彼らとどのような対話（議論）が可能であるか、またそれらの音を彼らとどのようにして共有できるのか、そこから自然・環境の音と彼らの音楽との関係性について何が考察ができるのかについて考えていきたい。

---

[20] 一方、Meyfroid et al.（2013）は、2000年～2010年にかけて中部高原南部のダクラク省とダクノン省の土地利用形態の変遷をリモートセンシングを用いて分析した結果、森林伐採の主要因はコーヒーなどの商品作物を栽培する大規模農園よりも、政府の定住化政策により耕作地の放棄を余儀なくされ周縁化された先住少数民族が行う焼畑耕作であると指摘する。

**謝辞**

本研究を実施するに当たり平成 26・27 年度公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団調査研究助成を受けた。記してここに謝意を表します。また調査に協力して頂いたバナ族の方々に心より感謝申し上げます。

参考文献

Allen, Aaron S and Kevin Dawe (eds.). 2016. *Current Directions in Ecomusicology*. Routledge: London.

Bùi Minh Đạo (eds.). 2011. *The Bahnar people in Vietnam*. Thế Giới publishers

Komatra Chuengsatiansup. 1999. Sense, symbol, and soma: Illness experience in the soundscape of everyday life. Culture, Medicine and Psychiatry 23:273–301.

クラウス，バーニー. 2013.『野生のオーケストラが聴こえる　―サウンドスケープ生態学と音楽の起源』伊達淳（訳），みすず書房.

フェルド，スティーブン. 2000.「音響認識論と音世界の人類学　―パプアニューギニア・ボサビの森から」山田陽一（編訳）「自然の音・文化の音　―環境との響き合い』昭和堂，26-63.

Meyfroidt, Patrick, Tan Phuong Vu and Viet Anh Hoang. 2013. Trajectories of deforestation, coffee expansion and displacement of shifting cultivation in the Central Highlands of Vietnam. *Global Environmental Change* 23: 1187-1198.

中井精一. 2011. 「フクロウの鳴き声から好天を予兆する」『人と自然（連携研究「自然と文化」研究連絡誌）』2: 2-5.

Nguyễn Văn Huy. 2006. *Đại Gia Đình Các Dân Tộc Việt Nam* . NXB Giáo Dục.

野田研一・奥野克巳（編）.2016. 『鳥と人間をめぐる思考　―環境文学と人類学の対話』勉誠出版.

Salemink, Oscar . 2003. The Ethnography of Vietnam's Central Highlanders: A historical contextualization, 1850–1990. University of Hawaii Press.

シェーファー, R.　マリー.2006. 『世界の調律－サウンドスケープとはなにか－』鳥越けい子・小川博司・庄野泰子・田中直子・若尾裕（訳），平凡社.

ト田隆嗣. 1996. 『声の力：ボルネオ島プナンのうたと出すことの美学』弘文堂.

新江利彦. 2007. 『ベトナムの少数民族定住政策史』風響社.

菅原和孝. 2015. 『狩り狩られる経験の現象学：ブッシュマンの感応と変身』京都大学学術出版会.

山田陽一. 2017.『響きあう身体: 音楽・グルーヴ・憑依』春秋社.

柳沢英輔. 2009. 「ベトナム中部高原ゴング演奏の現在 ： 演奏形態と旋律に関する一考察」『アジア・アフリカ地域研究』9(1): 65-85.

柳沢英輔. 2013. 「ベトナム中部高原山岳少数民族の伝統的集会施設「ニャーロン」の現在 ： コントゥム省,ジャライ省の事例から」『国立民族学博物館研究報告』37(2), 245-275.